

第一次十二湖振興戦略プラン

(2021年度～2026年度)

2021年（令和3年）11月

青森県深浦町

目次

I はじめに	
1. 第一次十二湖振興戦略プラン策定の目的と背景	02
2. 位置付け	02
3. 計画期間	02
II 十二湖観光の現状と課題	
1. 十二湖の概要	03
2. 十二湖における現状と課題	03
III コンセプトとテーマ	
1. コンセプト	04
2. テーマ	04
3. 施策体系と基本施策	04
IV 基本施策と具体的取組	
1. 新たな魅力空間の創出（ハード整備）	05
2. 十二湖に親しむ（ソフト事業）	06
3. 地域の宝として後世につないでいく（自然保護）	07
4. 誰もが安全安心に楽しめる十二湖公園づくり（安全対策）	08
5. 十二湖や深浦町の魅力を知ってもらう（情報発信・商品開発）	08
V 実施計画	
1. 新たな魅力空間の創出（ハード整備）	10
2. 十二湖に親しむ（ソフト事業）	10
3. 地域の宝として後世につないでいく（自然保護）	10
4. 誰もが安全安心に楽しめる十二湖公園づくり（安全対策）	11
5. 十二湖や深浦町の魅力を知ってもらう（情報発信・商品開発）	11
VI 策定体制	
1. 十二湖振興戦略プラン策定体制	12
VII 参考資料	
1. 深浦町の人口の推移ほか	14

1. 第一次十二湖振興戦略プラン策定の目的と背景

人口減少が進み地域の活力が減退する中、地域経済の維持・再生には基幹産業のひとつである「観光産業」の活性化が欠かせません。

また、2020年春から全国的に拡大した新型コロナウイルス感染症は各産業に多大な影響を及ぼし、とりわけ観光産業におけるダメージは大きく、人口減少や少子高齢化と相まって新たな観光振興策の構築が求められています。

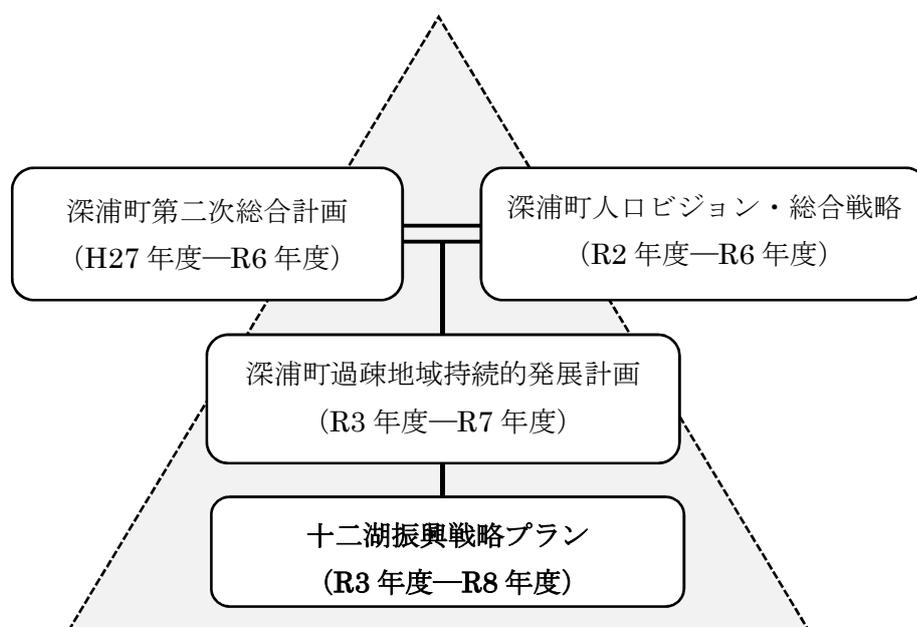
このような中、深浦町は日本一の大銀杏や千畳敷海岸、行合崎海岸、十二湖などの景勝地のほか、円覚寺などの歴史資源も有することから町全体が観光地であると言えますが、これらの観光スポットの中で特に観光需要が高い場所は「十二湖」となっています。

これらの状況を踏まえて、今後の観光振興のあり方を模索したとき、まずは観光需要が高い十二湖の魅力をさらに磨き上げるとともに、これを深浦観光のトップブランドに据え、その誘客力をもって地域全体に波及効果（シャワー効果）を及ぼすことを狙いに「十二湖フラッグシップ戦略」を進めることとし、その実施計画を定めることを目的に「十二湖振興戦略プラン」を策定するものです。

2. 位置付け

本プランは、深浦町の全体的な構想を示す「深浦町第二次総合計画（平成27年3月）」及び「深浦町人口ビジョン・総合戦略（令和2年3月）」、並びに「深浦町過疎地域持続的発展計画（令和3年9月）」を上位計画とする産業振興における観光分野の個別計画です。

十二湖振興が地域全体の観光産業を牽引するものとなるよう、各種計画と整合性を図りながら町民・事業者・行政が一体となって進めていきます。



3. 計画期間

2021年度（令和3年度）～2026年度（令和8年度）

1. 十二湖の概要

(1) 十二湖の位置

十二湖は、深浦町大字松神字松神山の国有地に位置し、江戸時代・宝永元年（1704年）、この地を襲った大地震によって谷口がせき止められ、地盤が陥没して形成されたといわれています。その時できた湖沼は33を数えましたが、崩山の中腹（大崩）から眺めると小さい池は森の中に隠れ、大きな池だけが12見えることから「十二湖」と名付けられました。

十二湖の池は、津軽森林管理署、青森県鯉ヶ沢河川事務所、深浦町がそれぞれ管理しているものの、中には王池東湖や王池西湖のように管理者が不明となっている、いわゆる「白地」の池もあります。この場合、所有者は国となりますが、法定外公共物として町管理の池と言えます。

(2) 十二湖の観光客入込数の推移

十二湖入込数の推移を物産館キョロロのレジカウント数で見ますと、10年間の平均で58,619人の来訪者があります。平成22年から概ね横ばいとなっていますが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響で前年比63.4%減となっています。また、物産館キョロロ従業員及び十二湖線（不老ふ死温泉～奥十二湖駐車場）を運行する弘南バス(株)ドライバーの話を総合すれば、令和2年のインバウンドは新型コロナの影響で皆無となっています。 (単位：人)

地点名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	平均
キョロロ	64,187	42,479	54,494	54,332	57,583	59,483	57,627	56,525	58,411	59,367	21,709	58,619

2. 十二湖における現状と課題

十二湖は、神秘の湖「青池」をシンボルレイクに沸壺の池、金山の池、落口の池など景観が美しい池が訪れる人々を魅了しています。このうち、青池～ブナ自然林～沸壺の池～十二湖庵の散策コースは起伏も少なく1時間弱で回ることが出来るため、一般客や旅行ツアーで訪問される方々の人気のコースとなっています。

また、白神十二湖エコ・ミュージアム主催の「十二湖33湖めぐり」や十二湖森の会が主催する「十二湖セラピーウォーク」は町内外から参加する人気イベントであり、十二湖森の会の会員による自然ガイドと合わせて、十二湖の魅力形成の一翼を担っています。

物産館「キョロロ」では多数の土産品を取り扱っており、シーズン中は多くの来店者で賑わっています。

一方、十二湖をブランディングするにあたり、次の課題があります。

- ①廃業した店舗の残置による景観問題
- ②王池に散見されるゴミと水質悪化と思われる悪臭問題
- ③路上や路外の違法駐車と路外の裸地化
- ④乗用車、大型バスなどの排気ガスによる環境と散策者への悪影響
- ⑤青池～ブナ自然林～沸壺の池コースへの一極集中による他の鑑賞スポットの衰退
- ⑥散策頻度が少ない遊歩道の劣化
- ⑦遊歩道サインの老朽化
- ⑧十二湖の情報発信不足

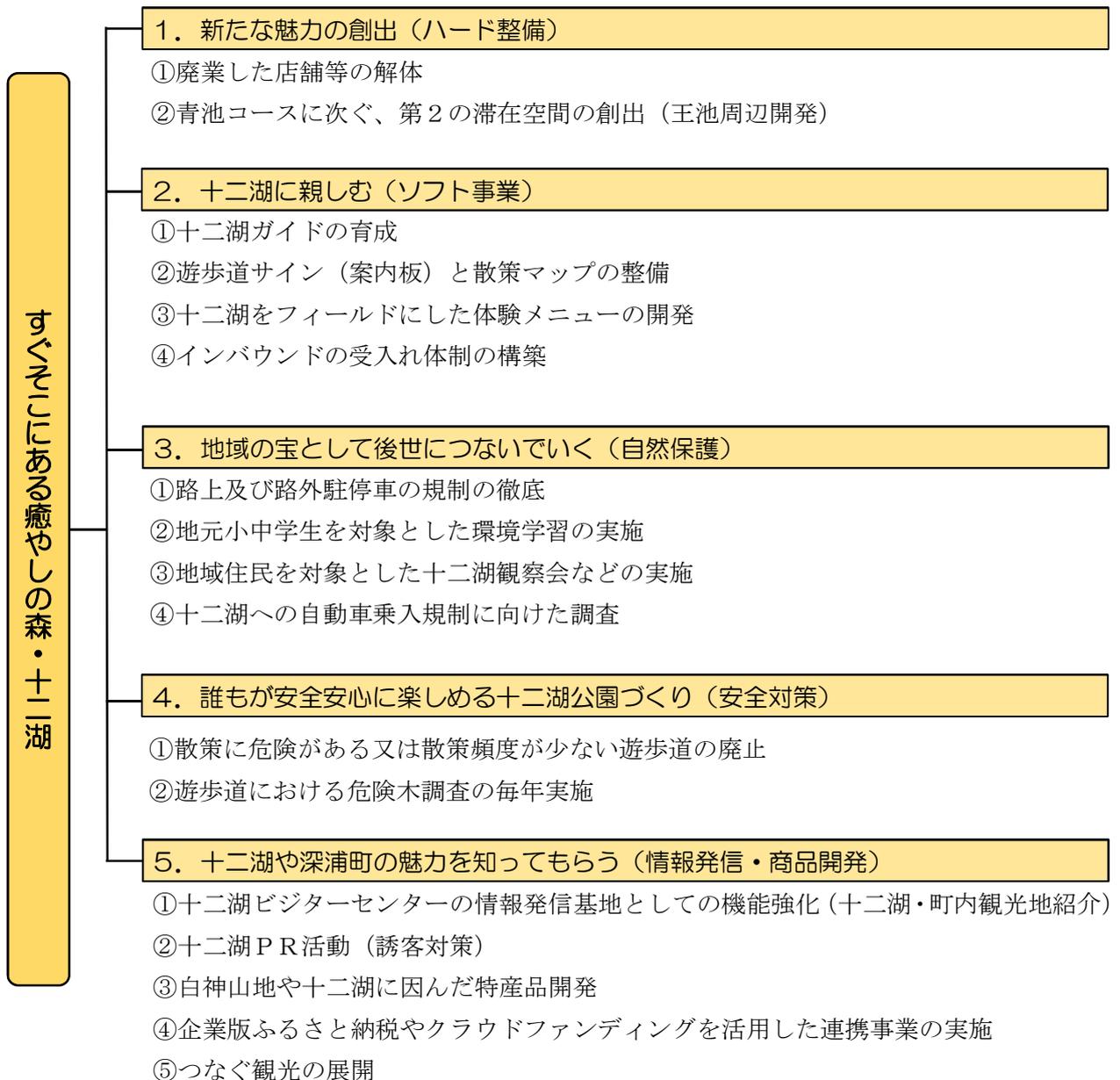
1. コンセプト

官民が協同して創る「十二湖の次のステージ」

2. テーマ

すぐそこにある“癒やしの森” 十二湖

3. 施策体系と基本施策



1. 新たな魅力空間の創出（ハード整備）

① 廃業した店舗等の解体

十二湖内には、廃業した店舗や宿泊施設が解体されずにそのまま残されており、景観を阻害する大きな要因となっていることから、解体撤去に向けて所有者との協議を進めます。

② 青池コースに次ぐ、第2の滞在空間の創出

青池～ブナ自然林～沸壺の池～十二湖庵のコースは、1時間弱の散策で気軽に池やブナ林を体感できることから人気コースとなっています。その一方、十二湖を訪れる一般客やツアー客の多くは青池鑑賞ないし青池コースを散策した後は十二湖から離れ、秋田県や他市町村の観光地に移動している状況が見られます。

かつて、王池湖畔では十二湖荘が食事処や貸しボート事業を行って王池周辺の賑わいを形成するとともに、観光客が湖に触れ合う機会を提供していましたが、現在は廃業し、建物はそのまま残置されています。

王池は十二湖で最大級の湖であり、湖面に映える景色や紅葉が美しく、また幹線道路沿いにあるため立寄りやすい場所であることから、王池湖畔を第2の滞在空間として再整備します。

【具体的取組】

- ア) 廃業した十二湖荘を解体し、その跡地に展望デッキ（屋根付）を整備します。
- イ) 王池付近にキッチンカーを配備できるスペース（5台分）を備えた駐車場を整備します。
- ウ) 王池での湖上遊覧ができるように貸しボート（手漕ぎ）を復活します。
- エ) 王池湖上からの風景が楽しめるように、湖上歩道（浮き歩道）を整備します。
- オ) 王池東湖と西湖の接続部に自然破壊とならない程度で「吊り橋」を設置し、東湖をメインに遊歩道を再整備します。※既存の遊歩道は、狭い箇所やオーバーハングして危険な箇所有り。
- カ) 越口の池から王池東湖に流入する場所は、十二湖で容易に見られる唯一の滝ですが、落下のしぶきが「泡」となり「悪臭」がするため、水質改善を図ります。



2. 十二湖に親しむ（ソフト事業）

①十二湖ガイドの育成

十二湖ガイドは、十二湖観光に大きな役割を果たすことからガイドの育成を実施します。

【具体的取組】

ア) 自然ガイド及び森林セラピーガイド育成研修を適宜実施します。

②遊歩道サイン（案内板）と散策マップの整備

十二湖の魅力は、気軽に白神山地や変化に富んだ湖沼に触れることができることにあることから、散策者が遊歩道に迷うことなく安全に散策できるようにします。

【具体的取組】

ア) 遊歩道における老朽化した案内板を適宜修繕します。

イ) 遊歩道と整合する散策マップを整備します。

③十二湖をフィールドにした体験メニューの開発

何度も訪れたい十二湖を目指して、十二湖の四季折々の体験プログラムを関係者の連携により開発します。また、冬の十二湖を活用し、台湾からの誘客を強化します。

【具体的取組】 ※許可申請を必要とする体験メニュー

ア) 王池デッキ又は湖上での音楽イベント ※癒やしの森の雰囲気溶け込むものとします。

（ターゲット）全年齢層

イ) 落口の池等でのカヤックやサップ等の体験（夏）

（ターゲット）親子、カップル、グループ

ウ) 王池でのワカサギ釣り大会（冬）※実施時期は要検討

（ターゲット）県内愛好家、インバウンド

エ) 王池での氷上ウォーキング（冬）

（ターゲット）関東以南在住者、台湾からのインバウンド

オ) 駅からハイキング（冬）

（ターゲット）関東以南在住者、台湾からのインバウンド

※体験メニューは、本プランのテーマに掲げる“癒やしの森”に合致するか否かに留意しながら、関係者それぞれが創出していくこととします。

※特段の許可なく実行できるもの（例）

- ・王池、落口の池でのホテル観察会（6月～7月）
- ・星空観察会（8月）
- ・十二湖33湖めぐり
- ・十二湖苔観察会 etc

④インバウンドの受入れ体制の構築

台湾からのインバウンド受入れの体制構築を図ります。

【具体的取組】

ア) 十二湖パンフレット及び案内看板の英語、台湾語表記を進めます。

イ) 台湾からの誘客増進を図るため、冬の体験メニューを開発します。

◆成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R8)
十二湖観光客入込数（4月～11月）春～秋	141,706人	149,000人
十二湖観光客入込数（12月～3月）冬	0人	300人

※冬の十二湖観光客入込数の計測方法は、十二湖森の会及び冬の宿泊体験プラン実施施設を調査対象とします。

3. 地域の宝として後世につないでいく（自然保護）

①路上及び路外駐停車の規制の徹底

一般車の路上及び路外の駐停車が通行の妨げや路外の裸地化を生んでいることから、環境保全のため、これらの規制を徹底します。

②地元小中学生を対象とした環境学習の実施

地元の子供たちが身近に世界遺産があることを誇りに思うとともに、自然を大切にする心を育むため、小中学生時より十二湖に触れる機会を提供します。

【具体的取組】

- ア) 町内の各学校と連携した環境学習を実施します。
- イ) 環境をテーマにした親子教室などを実施します。
- ウ) 他の世界遺産地域との交流事業を実施します。

③地域住民を対象とした十二湖観察会などの実施

地域住民を対象に、十二湖の魅力や自然保護の意識醸成のための十二湖観察会等を実施します。

【具体的取組】

- ア) 十二湖33湖めぐり等を適宜実施します。

④十二湖への自動車乗入規制に向けた調査

自動車の排気ガスは、十二湖の沿道植物に悪影響を与えると同時に散策者を不快にさせます。

また、十二湖内でスピードを出す車や連休など折々に渋滞が発生します。

政府は、地球温暖化対策として2030年代半ばまでにすべての新車を「ハイブリッド車」や「電気自動車」といった電動車にする方向性を打ち出しましたが、すべてが電気自動車になるには相当の年数を要するほか、自動車事故の危険性や渋滞といった課題は残ります。

このため、十二湖の自然景観を末永く保護するとともに、自動車事故や渋滞がない安全安心で快適な十二湖公園を目指して、自動車の乗入れ規制に向けた調査と課題の整理に取組みます。

【具体的取組】

- ア) 自動車の乗入れ規制に向けて他事例や法令等を調査し、その課題を整理します。

◆成果指標

指標名	現状値(R2)	目標値(R8)
小中学生を対象とした環境学習の実施数	—	2回
地域住民を対象とした環境学習の参加者数	37人	100人

4. 誰もが安全安心に楽しめる十二湖公園づくり（安全対策）

①散策に危険がある又は散策頻度が少ない遊歩道の廃止

狭く起伏が激しい遊歩道や散策頻度が少ない遊歩道は、今後の管理が困難となってくることから、関係機関と連携して統廃合を進めます。

②遊歩道における危険木調査の毎年実施

遊歩道散策時の落枝事故等がないように、関係機関と連携して危険木調査を毎年実施します。

5. 十二湖や深浦町の魅力を知ってもらう（情報発信・商品開発）

①十二湖ビジターセンターの情報発信基地としての機能強化（十二湖・町内観光地紹介）

当該施設は、十二湖を訪れる人々に十二湖の地形や生息する動植物を紹介するため、昭和 56 年 12 月に青森県によって設置されたものですが、館内の展示替えが行われていないことから内容に乏しい面があります。

また、町が管理委託を受けているものの、有効に活用しているとはいえない状況にあるため、十二湖の魅力と町内の観光スポットをより深く紹介するべく、当該施設の機能強化を図ります。

【具体的取組】

- ア) 当該施設の柔軟な運営を図るため、県に対して払下げを要望します。
- イ) 民間活力を活用するべく指定管理者制度を導入します。
- ウ) 十二湖内の情報発信を強化します。（大型スクリーンによる動画放映）
- エ) 深浦町内の観光スポットの情報発信を強化します。（大型スクリーンによる動画放映）
- オ) 来館者の満足度向上のため、ミュージアムショップを開設します。

②十二湖PR活動（誘客対策）

「十二湖に 33 の湖があることを知らない」「十二湖は青池しかないと思っていた」「十二湖は十三湖のように大きな湖だと思っていた」など、十二湖の認知度不足が見られるほか、青森県民においても十二湖を知らない、十二湖に行ったことがないという人が見られることから、十二湖の認知度向上を図るための情報発信を強化します。

【具体的取組】

- ア) マスメディア（新聞、テレビ、雑誌等）に対して積極的に情報発信します。
- イ) 青森県内の市部や県外都市部で「十二湖教室」を実施します。
- ウ) 十二湖専用 HP を開設するとともに、SNS による十二湖の魅力を発信します。

③白神山地や十二湖に因んだ特産品開発

地域ならではの土産品を購入することは旅の楽しみのひとつです。また、白神山地や十二湖に因んだ土産品は、全国から訪れる観光客が購入したとき大きな情報発信ツールにもなり、白神山地や十二湖に行ってみたくと思う動機付けとなりますので、地域にちなんだ特産品開発を進めます。

【具体的取組】

- ア) 地域産品を活用した加工品の開発に取り組みます。（農林水産物、白神酵母など）
- イ) 十二湖や白神山地に因んだ土産品開発に取り組みます。（加工食品以外）

④企業版ふるさと納税やクラウドファンディングを活用した連携事業の実施

事業資金の新たな調達方法として、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングが注目されています。

自然保護や社会的に意義のある活動に貢献したいという個人や企業との連携は、SDGsの観点からも重要な取組であることから、本プランに即して実施する事業に企業版ふるさと納税やクラウドファンディングを積極的に活用します。

⑤つなぐ観光の展開

本プランによる誘客効果を町全域に波及させるため、観光客の町内周遊で経済効果を生み出すツールを開発するとともに、地域における「おもてなし意識の向上」に向けた取組を進めます。

【具体的取組】

- ア) 十二湖を絡めた「町内周遊コース」を開発します。(季節ごと、景勝地ごと等)
- イ) 飲食店、物産館、特産品、体験等が一目で分かる情報ツールを開発します。(紙、デジタル)
- ウ) 事業者連携(交通・旅行会社等、町内の事業者同士)、異業種連携を推進します。
- エ) 広域連携による誘客を促進します。
- オ) おもてなしの心の醸成と環境美化を推進します。(町民意識の醸成、沿道や海岸漂着ゴミの収集、不法投棄防止、空き家・遊休施設・遊休地等の対策)

◆成果指標

指標名	現状値(R2)	目標値(R8)
町全体の観光客入込数	619,691人	650,000人
白神山地や十二湖に因んだ加工品、土産品の開発	—	10品
意識調査における来訪者の満足度 (※1) R4に基準値を設定する。	—	10%増

(※1) 観光施設、宿泊施設、飲食店にアンケート用紙を配布して計測します。



V 実施計画

1. 新たな魅力空間の創出（ハード整備）

施策	具体的取組	実施主体	実施年度
①廃業した店舗等の解体	所有者と解体に向けて協議する	町	R3
②青池コースに次ぐ、第2の滞在空間の創出	十二湖荘の解体と展望デッキ(屋根付)の整備	町	R5
	キッチンカー(5台分)のスペース付駐車場の整備	町	R6
	王池東湖に貸しボート(手漕ぎ)を復活	民間(公募)	R5
	王池東湖に湖上歩道(浮きタイプ)を整備	町	R7
	王池東湖と西湖の接続部に吊り橋整備、東湖の遊歩道整備	町	R8
	王池及び上流池の水質改善	町	R4

2. 十二湖に親しむ（ソフト事業）

施策	具体的取組	実施主体	実施年度
①十二湖ガイドの育成	自然ガイド及び森林セラピーガイドの育成	森の会	R3
②遊歩道サインと散策マップの整備	遊歩道の老朽化した案内板の修繕	町	R4
	遊歩道と整合性のとれた散策マップの作製	町	R4
③十二湖をフィールドにした体験メニューの開発	許可等不要の体験メニューの適宜実施	民間	R3
	王池デッキ又は湖上での音楽イベント	町・観光協会・ 民間	R5
	落口の池等でのカヤックやサップ等の体験(夏)		R4
	王池でのワカサギ釣り大会(冬)		未定
	王池での氷上ウォーキング(冬)		R4
	駅からハイキング(冬)		R4
④インバウンドの受入れ体制の構築	十二湖パンフレット、案内看板の英語・台湾語表記	町	R5
	台湾からの誘客増進を図るための体験メニューの開発	民間	R5

3. 地域の宝として後世につないでいく（自然保護）

施策	具体的取組	実施主体	実施年度
①路上及び路外駐車車の規制の徹底	路上、路外での駐停車が見られる箇所に駐停車禁止の看板設置	町	R3
②小中学生を対象とした環境学習の実施	町内の各学校と連携した環境学習の実施	町・森の会	R4
	環境をテーマにした親子教室などの実施	町・森の会	R4
	他の世界遺産地域との交流事業の実施	町・森の会・民間	R6
③地域住民を対象とした観察会などの実施	十二湖33湖めぐり等の適宜実施	森の会	R3

④自動車乗入規制に向けた調査	十二湖への自動車乗入規制に向けた調査と課題整理	町	R8

4. 誰もが安全安心に楽しめる十二湖公園づくり（安全対策）

施策	具体的取組	実施主体	実施年度
①危険又は散策頻度が低い遊歩道の廃止	散策に支障がある又は散策頻度が低い遊歩道の廃止	町・森の会	R4
②遊歩道における危険木調査の毎年実施	遊歩道における危険木調査の毎年実施	町・関係機関	毎年

5. 十二湖や深浦町の魅力を知ってもらう（情報発信・商品開発）

施策	具体的取組	実施主体	実施年度
①十二湖ビジターセンターの情報発信基地としての機能強化	十二湖ビジターセンターの町への払下げ要望	町	R3
	指定管理者制度の導入	町	R5
	十二湖の情報発信力の強化(動画放映)	町・指定管理者	R4
	深浦町内の観光スポットの情報発信の強化(動画放映)	町・指定管理者	R4
	ミュージアムショップの開設	指定管理者	R5
②十二湖PR活動	マスメディアへの積極的な情報発信	全関係者	R4
	青森県内外の都市部での「十二湖教室」の実施	町・森の会	R6
	十二湖専用HPの開設、SNSを活用した情報発信	町・森の会	R4
③白神山地や十二湖に因んだ特産品開発	地域産品を活用した加工品開発	民間	R4
	十二湖や白神山地に因んだ土産品開発	民間	R4
④企業版ふるさと納税、クラウドファンディングを活用した連携事業の実施	企業版ふるさと納税、クラウドファンディングの活用	町・民間	R5
⑤つなぐ観光の展開	十二湖を絡めた「季節ごとの周遊コース」の開発	町・観光協会	R5
	飲食店、物産館、特産品、産業体験等の情報ツールの開発	町	R5
	事業者連携、異業種連携の推進	町・観光協会	R6
	広域連携による誘客促進	観光協会	R4
	おもてなしの心の醸成と環境美化の推進	町・関係者・町民	R3

1. プランの策定体制

第一次十二湖振興戦略プランの策定にあたっては、有識者、関係団体代表者などで構成する「十二湖振興戦略会議委員会」に加えて、実務者レベルで原案を作成するため関係団体や地域住民で組織する「十二湖振興戦略会議専門部会」を設置するとともに、専門的見地からのアドバイスをいただくべく、委員会には国、県の職員を、部会には広告会社をアドバイザーとしてそれぞれ配置しました。

■十二湖振興戦略会議（委員）

	氏名	所属・役職	備考
1	西崎 朋	(一社) 深浦町観光協会 代表理事	会長
2	大川 清信	深浦町商工会 会長	副会長
3	柴田 亜希子	J R 東日本秋田支社 観光推進室長	
4	渋谷 孝歩	しらかみ十二湖 (株) 支配人	
5	原田 勇成	十二湖森の会 会長	
6	佐藤 洋一	深浦町 副町長	
7	佐藤 智一	津軽森林管理署 署長	アドバイザー
8	斎藤 良正	青森県自然保護課 主幹	アドバイザー

■十二湖振興戦略会議（専門部会員）

	氏名	所属・役職	備考
1	神馬 亨	(一社) 深浦町観光協会 事務局長	部会長
2	上田 正信	深浦町商工会 主任経営指導員	副部会長
3	加藤 恭子	しらかみ十二湖 (株) 係長	
4	工藤 雅夫	青森県青年農業士	
5	齊藤 拓人	十二湖森の会 事務局長	
6	米内山 和代	地域住民	
7	八木橋 健	地域住民	
8	赤城 麻依子	(株) プラス 常務取締役	アドバイザー

■十二湖振興戦略会議（事務局）

	氏名	所属・役職	備考
1	一ノ関 浩司	深浦町観光課 課長	
2	山本 昭彦	深浦町観光課 参事	
3	蝦名 一裕	深浦町観光課 主幹	

■十二湖振興戦略会議開催状況（委員会・専門部会）

回	月 日	会議の別	内 容
1	令和3年7月1日	第1回委員会、第1回専門部会 合同会議	委嘱状交付、プラン策定の背景と目的の共有
2	令和3年7月29日	第2回専門部会	十二湖現地踏査
3	令和3年8月26日	第3回専門部会	十二湖振興戦略プラン原案の検討
4	令和3年9月27日	第2回委員会	十二湖振興戦略プラン原案の協議
5	令和3年11月17日	最終会議（合同会議）	十二湖振興戦略プランの決定
	令和3年11月19日	答申	十二湖振興戦略プランの答申

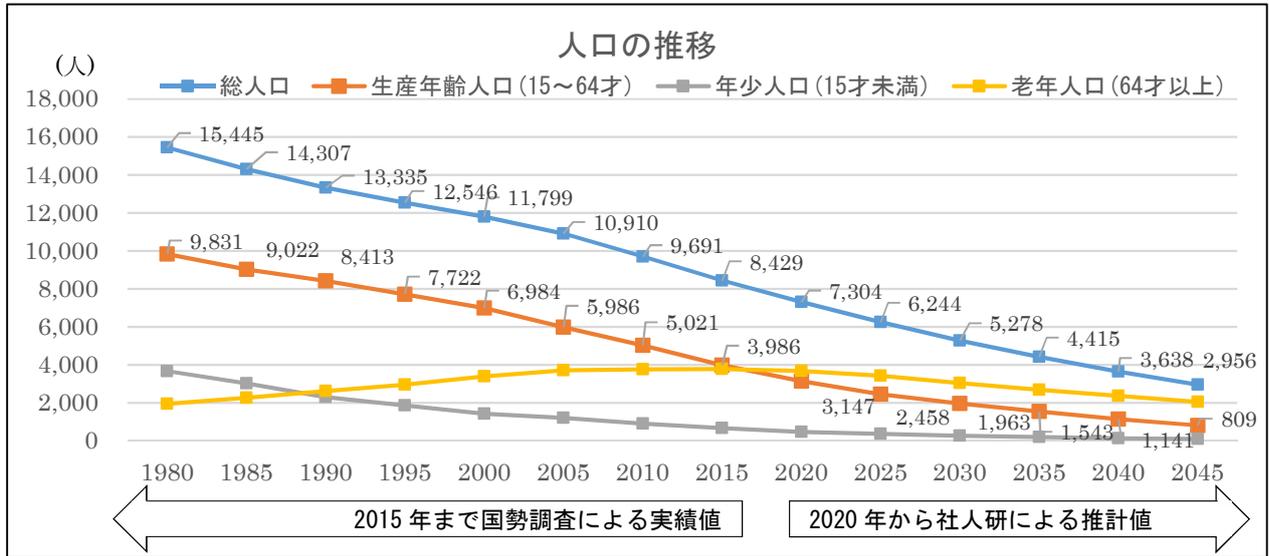


第1回合同会議の様子

1. 深浦町の人口推移

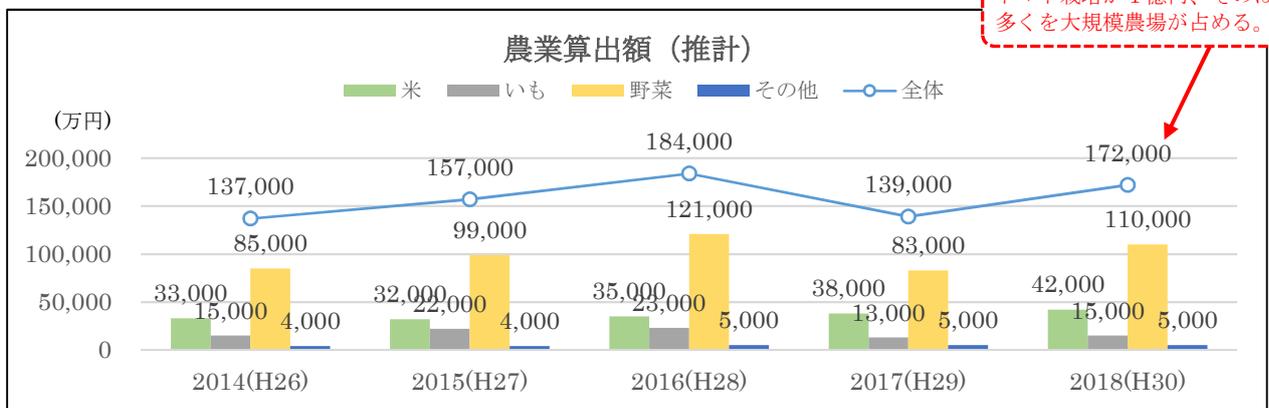
1980年（昭和55年）に15,445人であった人口は、2015年（平成27年）の国勢調査では8,429人と45.4%減少し、2045年（令和27年）には2,956人になると推計されています。

また、生産年齢人口においても減少を続け、2020年（令和2年）には老年人口と逆転し、2045年（令和27年）には809人になると推計されています。

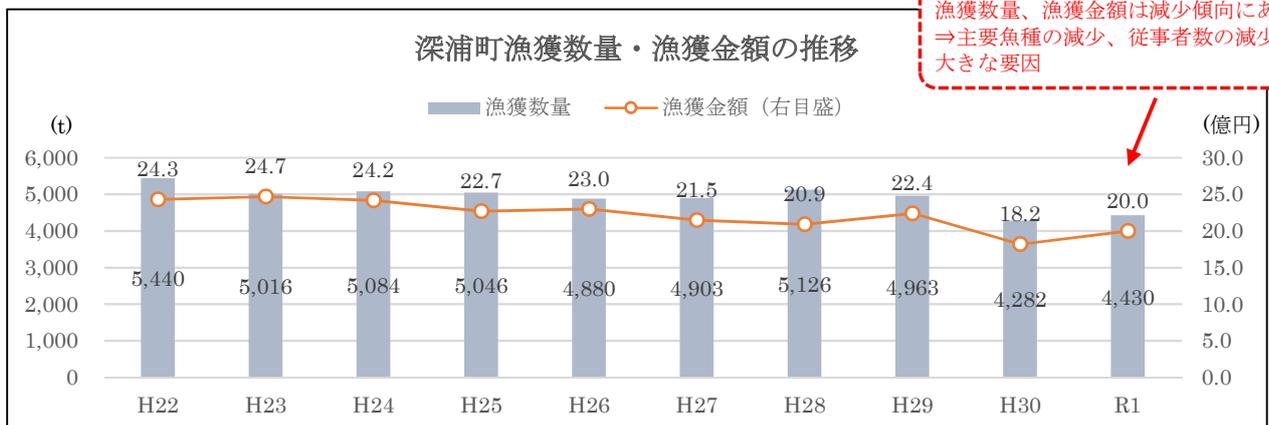


2. 産業の概観

(1) 一次産業の状況



トマト栽培が1億円、そのほかの多くを大規模農場が占める。



漁獲数量、漁獲金額は減少傾向にある。
⇒主要魚種の減少、従事者数の減少が大きな要因

(2) 観光産業の状況

①産直施設の状況

産直施設	販売内容	出品者数 R2.7 現在	備考
道の駅「かそせいか焼き村」	鮮魚販売、総菜販売、土産品販売、食堂	49者	惣菜出品者の8割以上が65歳以上であり、今後の出品者確保が課題となっている。
海の駅「まるごと市場」	鮮魚販売、総菜販売、土産品販売、食堂	16者	
十二湖駅産直施設	鮮魚販売、総菜販売、土産品販売、ロッカー貸出	24者	

②宿泊業、飲食店の状況（令和2年11月現在）

種別	施設名	件数	収容人数 合計	備考
宿泊施設	不老ふ死温泉、深浦観光ホテル、田中旅館、民宿望洋館、民宿田中、ペンション深浦、民宿きへい荘、和風ペンション美洋館、静観荘、白神山荘、民宿汐ヶ島、アオーネ白神十二湖	12軒	850人	
食事処	匠屋、味園、広福丸漁師カフェ「網小屋」、加藤食堂、千畳敷センター、民宿田中、かそせいか焼き村、かおりの店、三国屋、セイリング、陽陽、まるごと市場、かまど屋、ペンション深浦、サンセット、広げ、ぎょりん、ラーメン101、お食事処夕陽、鶴田漁業、自由軒、末丸食堂、静観荘、グリル王池、レストランアカショウビン、福寿草	26軒		

③商工業における後継者の可否（商工会加入者、令和元年7月現在）

地元資本の商工業者およそ198者のうち、92者で後継者がいない状況です。経営者の平均年齢は、およそ65才となっています。

④イベントの実施状況（規模が大きいもの）

イベント名	開催時期	内容	備考
日本一の大銀杏ライトアップ	11月中旬～下旬	日本一の大銀杏ライトアップによる晩秋の誘客イベント	令和3年度で10回目
ふかうらイルミネーション	11月中旬～下旬	晩秋の誘客イベント	令和3年度で2回目
夏祭り「ヤットセ」	8月中旬	帰省時に合わせた盆踊りと花火大会	平成30年度で終了
ちゃんちゃんと深浦牛まつり	10月下旬	鮭の消費拡大と食による誘客イベント	令和元年度で終了
グルメ in ふかうら	2月毎週土日	冬の魚をメインとしたグルメイベント	コロナ感染防止のため、リニューアル検討中

3. 深浦町観光の課題と対策

(1) SWOT分析

	O 外部環境（機会）	T 外部環境（脅威）
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の人気ローカル線「五能線」がある。 ・日本海に沈む夕陽は観光資源 ・青森県は「自然景観」の観光ニーズが高い。 ・十二湖を目的に訪れる観光客が非常に多い。 ・青森県来訪者は、北東北と南関東居住者が多い。 ・青森県を観光する同行者は、友人知人が多い。 ・東日本大震災や新型コロナ、台風など自然災害が発生した場合、個人旅行の回復が早い。 ・観光需要の回復に向けた国の政策プランが創設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青森市、弘前市など地方都市から遠距離にある。 ・冬期間の五能線は強風などにより運休が多くなる。 ・冬の道路は運転が怖い ・新型コロナウイルス感染症の影響 ・東日本大震災や新型コロナ、台風など自然災害が発生した場合、バス旅行はなくなり回復も遅い。
<p style="text-align: center;">S 内部環境（強み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産白神山と十二湖の強い集客力と観光需要の高さ ・日本一の大銀杏 ・日本海の魚（マグロ、イカ、ぶり、鯛、ハタハタ等） ・道の駅、海の駅で魚が買える。 ・ふかうら雪人参 ・千畳敷、風合瀬、行合崎、大岩など景勝地が多い。 ・円覚寺、北前船の歴史と文化 ・黄金崎不老ふ死温泉 ・地元の魚を食べられる食事処がある。 	<p style="text-align: center;">(対策)</p> <p style="text-align: center;">十二湖をトップブランドに据えた観光振興 ⇒「十二湖フラッグシップ戦略」の展開</p> <p style="text-align: center;">(方法)</p> <p style="text-align: center;">十二湖振興を図るための計画を策定し、官民共通した認識で観光施策を展開する。</p>	
<p style="text-align: center;">W 内部環境（弱み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総人口、生産年齢人口の著しい減少（10年後の人口は5,278人、20年後は3,638人に） ・第一次産業従事者、商工業者、十二湖ガイドが高齢化する一方、新規参入者が皆無 ・産直施設出品者の高齢化と新規参画者の皆無 ・冬季の観光者が少ない。 ・町が南北に長く、移動できる道路は国道101号のみ。 		

十二湖の池管理者一覧

	湖沼名		面積(m ²)	深度(m)	所有者	管理者
1	八景の池	はっけいのいけ	11,500	12.8	森林管理局	森林管理署
2	二ツ目の池	ふたつめのいけ	5,950	8.0	〃	〃
3	王池西湖	おういけにしこ	14,300	13.0	国	管理者なし
4	王池東湖	おういけひがしこ	39,200	24.0	〃	〃
5	越口の池	こしくちのいけ	47,450	23.3	〃	〃
6	中の池	なかのいけ	13,050	14.4	〃	〃
7	落口の池	おちくちのいけ	27,200	20.3	〃	〃
8	がま池	がまいけ	200	2.0	森林管理局	森林管理署
9	鶏頭場の池	けとばのいけ	41,150	21.9	国	管理者なし
10	青池	あおいけ	975	9.0	〃	〃
11	沸壺の池	わきつぼのいけ	575	3.1	森林管理局	森林管理署
12	長池	ながいけ	9,800	7.6	〃	〃
13	子宝の池	こだからのいけ	300	1.0	〃	〃
14	四五郎の池	しごろうのいけ	3,500	1.0	〃	〃
15	金山の池	かなやまのいけ	33,100	15.5	〃	〃
16	濁池	にごりいけ	20,900	5.6	国土交通省	県鯉ヶ沢河川事業所
17	大池東湖	おおいけひがしこ	27,200	9.1	〃	〃
18	大池西湖	おおいけにしこ	64,150	27.3	〃	〃
19	破池	やぶれいけ	6,000	6.7	森林管理局	森林管理署
20	面子坂の池	めんこざかのいけ	30,500	15.5	〃	〃
21	千鳥の池	ちどりのいけ	2,000	7.6	〃	〃
22	牛蒡の池	ごぼうのいけ	8,550	10.5	〃	〃
23	三蔵の池	さんぞうのいけ	325	4.7	〃	〃
24	糸畑の池	いとばたのいけ	29,850	17.0	〃	〃
25	萱原の池	かやはらのいけ	1,000	1.0	〃	〃
26	埋釜の池	いかりがまのいけ	1,400	5.0	深浦町	深浦町
27	石穀の池	いしこくのいけ	300	1.0	森林管理局	森林管理署
28	道芝の池	みちしばのいけ	1,300	1.0	〃	〃
29	八光の池	はっこうのいけ	575	1.0	〃	〃
30	仲道の池	なかみちのいけ	1,950	1.8	〃	〃
31	日暮の池	ひぐらしのいけ	11,050	15.9	〃	〃
32	小夜の池	さよのいけ	752	1.0	〃	〃
33	影坂の池	かげさかのいけ	2,500	3.8	〃	〃



すぐそこにある“癒しの森” 十二湖

(策定日) 令和3年11月

(策定者) 深浦町・十二湖振興戦略会議